



中部大学春日丘高校 SGH課題研究「情報収集スキル学習」

—問題を認識し、情報を集め、解決に向かうための道のり—

## 第1回 領域分けと問題認識学習

### 開催概要

- ◆ 日時: 2016年9月24日(土) 3・4時間目
- ◆ 場所: 教室(領域別)
- ◆ 指導者: 領域別担当教員
- ◆ 対象生徒: 国際コース・啓明コース1年
- ◆ 第1回学習のねらい
  - ① 領域ごとに分かれ、グループをつくる。グループで今後活動していくための気持ちを高める。
  - ② 領域への関心を強め、今後の研究に対する意識を高める。
  - ③ 「問題」は人によって違い、相手の立場に立って考えることの必要性に気づく。
  - ④ 問題解決のためのプロセスがわかるようになる。

### 学習の流れと成果

#### 1. オリエンテーション

これまでの学習を通じて自分が関心を持った領域を1つ選び、領域ごとのクラスに分かれた。領域ごとに担当教員が1名つき、今後グループ研究を行っていくことを伝え、今後のスケジュールを確認した。また、最終的にはグループで1つのプレゼンテーションを作る必要があることを伝えた。クラスの中でコース、男女比などを考慮してグループを作成し、そのグループで座った。

#### 2. アイスブレイク 4つの私1つはウソ

- ① A4用紙を四等分し、自己紹介を4つ記入。そのうち一つをウソにする。
- ② グループ内で自己紹介をし、4つのうちどれがウソかをほかのメンバーにあててもらった。

#### 3. 問題認識学習 ～私の問題はあなたの問題？～

- ① ワークシート1を配布。書かれている問題の中で自分が問題だと思うものの番号に○をつけた。

ワークシートに書かれている事象(一部抜粋)

一ヶ月のお小遣いが1000円・自転車が盗まれた・親友とけんかをした  
世界人口が72億人を超え、今も増え続けている  
ベトナムでは工業排水により水質汚染が進んでいる など

○をつけたものの中から大きな問題だと思うもの3つを選び、理由を書いた。
  - ② グループ内でどれが問題だと思ったかを発表し、理由を説明した。
- \* 教員は、問題だと感じたものが他の人とすべて同じであることはほとんどなく「問題」は主観的なものであることを確認し、資料を配付した。



- ③ 次の例の状況について、現状、あるべき姿、解決のための行動を考えた。

AさんとBさんは毎日東京郊外の自宅から満員電車でゆられ、都心のオフィスに通勤しています。今年、地方から転勤してきたAさんは「この通勤ラッシュは耐えられない、大問題だ」と憤っていますが、東京育ちのBさんは「まあこんなもんだろ」と思っています。

- ④ グループごとにAさん、Bさんの行動を発表し、教員は板書した。

Aさんは解決のために行動することが多いが、Bさんは問題と思っていないので解決の行動もないことを確認。今後、研究していく際に、自分たちは問題と思っている相手はそう思っていないこともあるので、相手の立場に立って考える必要があることを伝えた。



#### 4. 共通の問題をみんなで越える

- ① テーマ『グループ活動を成功させる！』

模造紙を3等分し、左に「状況分析」中央に「あるべき姿」右に「解決策」と書いた。

- ② 状況分析: グループで今後作業していくうえで問題となる可能性がある現在の状況を箇条書きにした。(ex. コースが違う、初めて話した生徒がいる)
- ③ あるべき姿: 問題に対して、こうあると良いというグループの理想の姿を書いた。
- ④ 解決策: 現状からあるべき姿にするためにはどうしたら良いかを考えた。



#### 5. グループ活動成功への3か条づくり

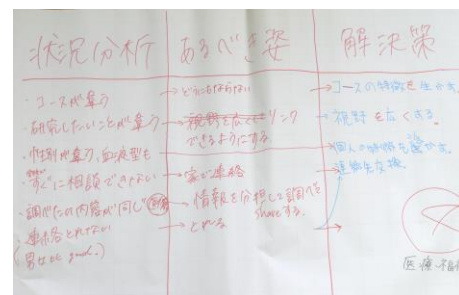
解決策を見て、グループ活動を成功させるための3か条をA3の紙にまとめた。

グループごとに決まった3か条を発表した。

研究をするうえで問題は何かを考える、状況を分析する、あるべき姿を考える、解決策を考えるというプロセスが必要であることを確認。

<宿題>

各領域に関する情報を収集してくる(一人2種類)。



#### ★今回のプログラムのねらい★

生徒たちはこれまで、カリキュラムA(国際理解教育)で基礎を学び、カリキュラムB(4領域の学習)で様々な角度から世界の課題について学んできました。これらの学習から、自分がどの領域に興味を持ち、調べてみたいと思ったかを振り返り、研究領域の選択を行いました。生徒たちは、「講演の内容が心に残った」「世界の課題を大きくとらえたい」「将来の夢に関わるから」など、それぞれの動機を持って各領域でのこれからの学習に臨んでいます。

今回のプログラムでは、4つの領域ごとのクラスに初めて分かれたこともあり、クラス・グループが仲良くなるということも意識して行いました。また、「問題」というものは一人ひとりの主観で感じられるものであり、人によってそのとらえ方が違っていることを確認しました。途上国への開発協力を行うときなど、こちらが問題だと思い改善を促そうとしても、現地の人たちは問題だと認識していないので、改善をしようしないということが起こります。本校の研究においても、個人の主観的な思いだけで決めつけた問題提起をしないように心がけなくてはなりません。これは研究だけでなく、今後のグループ学習の進め方にもつながるものです。そして、最後に自分たちが今後グループ活動をしていくうえで必要なことも、話し合いを通して決めことができ、今後の学習で意識していく指針ができました。